

環境白書の刊行にあたって



私たちは今、大気や水の汚染、廃棄物対策に加え、地球温暖化や生物多様性の損失といった地球規模の環境問題に対して、積極的に取り組むことが求められています。こうした環境問題は、一人ひとりの日々の暮らしや社会の様々な分野における活動と密接に関連した問題でもあり、その解決には、行政だけでなく県民や事業者が、日々の暮らしの在り方や事業活動を、環境に配慮した方向へ変えていくことが何よりも大切です。

このため、県では、本県が誇る健全で恵み豊かな環境の維持向上を図るため、「ふるさと石川の環境を守り育てる条例」に基づき、「環境総合計画」を策定し、多岐にわたる環境問題に県民、事業者、行政などの各主体が協働して取り組んできました。

こうした中、2050年までのカーボンニュートラルの実現に向けた国の地球温暖化対策計画の改定など、本県の環境保全に関する状況に大きな変化があり、昨年9月には、同条例を改正し、カーボンニュートラルの推進や、トキなどの希少な野生の動植物が生息できる自然環境の保全、次世代への継承に向けて、あらゆる関係者が密接に連携しながら取り組んでいくこととしました。

カーボンニュートラルの推進については、2050年温室効果ガス排出実質ゼロを目指し、同月に「2050年カーボンニュートラル宣言」を行うとともに、「環境総合計画」を改定し、国の削減計画を踏まえ、2030年度の温室効果ガス削減目標を、2013年度比で従来の30%から50%に大幅に引き上げました。

さらに、本年5月には、部局横断でカーボンニュートラルを推進するため、「カーボンニュートラル推進本部」を設置しました。GX（グリーントランスフォーメーション）を通じた産業競争力の強化や脱炭素化に向けた県民・事業者の行動変容の促進などの取り組みを一層加速させてまいります。

トキの放鳥については、昨年8月に、能登地域の4市5町が放鳥候補地として選定され、本年3月には、放鳥までに必要となる取組内容などをまとめた「能登地域トキ放鳥推進ロードマップ」を策定しました。本年を実行元年と位置づけ、早ければ、令和8年度となる能登地域での放鳥の実現に向けて、取り組みを本格的に進めてまいります。

この白書は、環境の現状や課題、令和4年度における施策の実施状況などをまとめたものです。本書が、環境に対する県民の皆様の理解を深めていただく一助となることを願うとともに、各種の取り組みについて積極的なご意見、ご提言、そして、ご参画を賜れば幸いです。

令和5年10月

石川県知事 馳 浩